

東京地区の
合材工場

土日閉所が着実進展

予約制などが奏功

東京地区のアスファルト合材工場で、4週8閉所の取り組みが着実に進展している。

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）がまとめた2025年4月～26年1月の最新閉所実績によると、土曜の閉所率は43・4%となり、24年度通期実績に比べて9・9%上昇した。日曜は8・2%上昇して75・5%となった。24年度から本格的に始めた土日祝日出荷の事前予約制などが奏功している。

東京アスファルト合材協会

の会員工場28カ所の実績を集計した。支部別の土曜の閉所率によると、城東地区は34・5%、城北地区は44・3%、城西部地区は34・1%、城南地区は47・2%、多摩地区は54・8%となり、多摩は初めて過半数を超えた。日曜の閉所率は、城東が45・3%、城北が91・9%、城西が70・2%、城南が69・8%、多摩が96・8%で、城北と多摩は完全日曜閉所の実現が近づいている。

東京地区の合材工場では24年度から、「来客があるかもしれない」という不透明な待機をなくすため、休日出荷の完全予約制を導入し、予約がない場合は工場閉所する運用を徹底しているという。併せて、取り組みを支援する日合協は、土日祝日営業状況一覧表をホームページに掲載し、道路舗装会社などの顧客が稼働状況を事前確認できるよう

になっている。

